
唐長 正絹ちりめん友禅



唐長は1624(寛永元)年に創業。唐長(唐紙屋長右衛門)は、江戸時代より唯一途絶えることなく続いている唐紙屋として知られています。

代々受け継がれた板木を使って、和紙に文様をのせた唐紙は建造物の襖や壁紙として用いられ、桂離宮、二条城など歴史的建造物の襖を手掛けていることでも有名です。文様を彫った板木は650種類以上あり、近年では襖や壁紙だけでなく、ポストカードや照明のカバーなど現代のライフスタイルに合わせた新しい展開にも積極的に取り組まれています。

長年に渡り受け継がれてきた板木の中から代表的な文様をふろしきとして染めあげました。唐紙が持つ独特な顔料のムラ感や、雲母刷りの奥ゆかしい輝きなどを存分にふろしきの上で表現した逸品です。ふろしきとして、袱紗として。また、大切な方への贈り物にもご利用ください。



45 唐長 正絹ちりめん友禅

¥5,000(税抜) 約45cm | 絹100% | 箱入帯付



梅の丸

古くから梅は春寒の中で百花に先駆けて花をつけることから貴ばれ、吉祥文様としても希望、忍耐を表すとして親しまれています。また、永遠、縁（円）、和（輪）などを意味する丸文様も縁起のよい形です。

New!



梅の丸 ウスコウバイ
30649-101

天平大雲

天平大雲の雲文は三つの雲塊を細い尾で連結した大胆な連雲文で大きくうねる雲は、めでたい時にかかる紫色の雲、瑞雲だと云われています。また、雲は雨を呼ぶことから実りと豊穡を表し、良き事を呼び寄せ運氣上昇の願いも込められています。

New!



天平大雲 ウスキ
30649-102

信夫の丸

暑い夏に涼感を楽しむため軒下などに吊るす「しのぶ玉」を装飾的にデザインした紋様です。信夫は葉裏に多くの胞子を持ち、高い繁殖力から子孫繁栄や商売繁盛など縁起の良いモチーフとして知られています。

New!



信夫の丸 フジ
30649-103

双葉葵

双葉葵は下鴨神社と上賀茂神社の神紋となっており、京都の春を彩る葵祭でも使われています。葵の葉は常に太陽を向く習性があり、太陽を「あおぐ」ともとられ、幸先良いとされたそうです。また双葉葵は縁をとりもち、夫婦円満を表します。

New!



双葉葵 アサギ
30649-104